記者発表

平成２６年７月２２日
東北地方整備局道路部
秋田河川国道事務所
秋　田　県　土　木　部

点検実習を通じて橋梁保全の技術力向上を図ります

～市町村職員の参加による橋梁点検の現地研修会の開催～

橋梁やトンネルなどの道路施設の老朽化が進む一方で、多くの市町村においては技術職員の不足や、専門的な技術力の向上が重要な課題となっています。
このため、去る5月27日、県内の道路管理者が連携し、道路インフラの長寿命化の推進、維持管理に関する情報共有・連携、技術力の向上などを目的に**「秋田県道路メンテナンス会議」**を設立したところです。
今般、「秋田県道路メンテナンス会議」において、道路の維持管理業務に携わる市町村職員を対象として、橋梁の点検実習を行い、**橋梁点検・橋梁保全の技術力向上を図るため、現地研修会を開催**します。
これによって、道路利用者の安心・安全の確保に寄与することをめざします。
なお、道路メンテナンス会議が主催して、全市町村の職員を対象にした橋梁点検の研修会は、**東北では初めて**となります。

【開催概要】

1．日　　時　　平成26年7月28日（月）
【午前の部】10:00～12:00
（山本・秋田・由利地域振興局管内13市町村）
【午後の部】13:30～15:30
（鹿角・北秋田・仙北・平鹿・雄勝地域振興局管内12市町村）

2．場　　所　　国道13号　新旭橋　（秋田市茨島一丁目付近）※別添参照

3．参加予定者　　東北地方整備局、秋田県、県内25市町村、東日本高速道路(株)から50名程度

4．研修の内容　　実際の橋梁を利用して、橋の床版、桁、橋台等の損傷や劣化状況を、**リフト車**または**足場**を利用して、**近接目視点検技術**の研修を実施。

5．取材について　現地研修状況は取材可能です。
リフト車への搭乗、足場への立ち入りも可能です。
現場入場する際に必要となるヘルメットと安全帯は、当方で準備します。
７月２５日正午までに下記担当者宛に電話かＦＡＸ、メールで事前登録をお願いします。
なお、会場内では係員の指示に従っていただくようお願いします。

秋田河川国道事務所　計画課
施策分析評価係長　名古屋（ナゴヤ）
ＴＥＬ：018-864-2293（直通）内線263
ＦＡＸ：018-864-5599
E-mail：nagoya-g82ac@thr.mlit.go.jp

〈発表記者会：秋田県政記者クラブ〉

〈問い合わせ先〉
秋田河川国道事務所
事業対策官　島津　君雄　　TEL　018-823-4167（代表）（内線208）
秋田県　建設部　道路課
道路課長　　柴田　公博　　TEL　018-860-2480（直通）

平成26年7月28日（月）
橋梁点検現地研修会 位置図



リフト車を利用した橋梁点検の例



「新旭橋」詳細図



橋梁点検現地研修会（秋田県道路メンテナンス会議事務局）

■橋梁諸元

路線名	一般国道13号	距離標	303.211kp	交差物件	旭川
橋梁名	ｼﾝｱｻﾋﾊﾞｼ(ﾉﾎﾞﾘ) 新旭橋（上り）	所在地	秋田県秋田市茨島～川尻新川町地内		
		橋梁形式	単純合成鋼鈑桁橋・4連 ②		
橋　長	123.8m	支間長	34.8+32.0+28.0+26.0m		
幅　員	10.10m	有効幅員	9.25m	交通量（上下線合計）	34,278台/24H(H22) 40,961台/24H(H11)
竣工年	1974年（S49、経過年数 40 年）			示方書	S47道示 ①
定期点検	平成21年　C判定：主桁等鋼部材（腐食）、伸縮装置（漏水・排水型）				

■現地状況



➢橋面：A1側からA2側を望む



➢右側面：A1右側面から望む

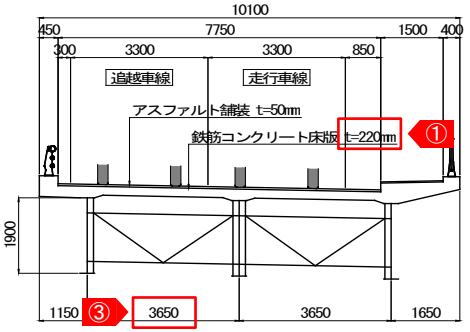


➢桁下面：A1側からP1側を望む

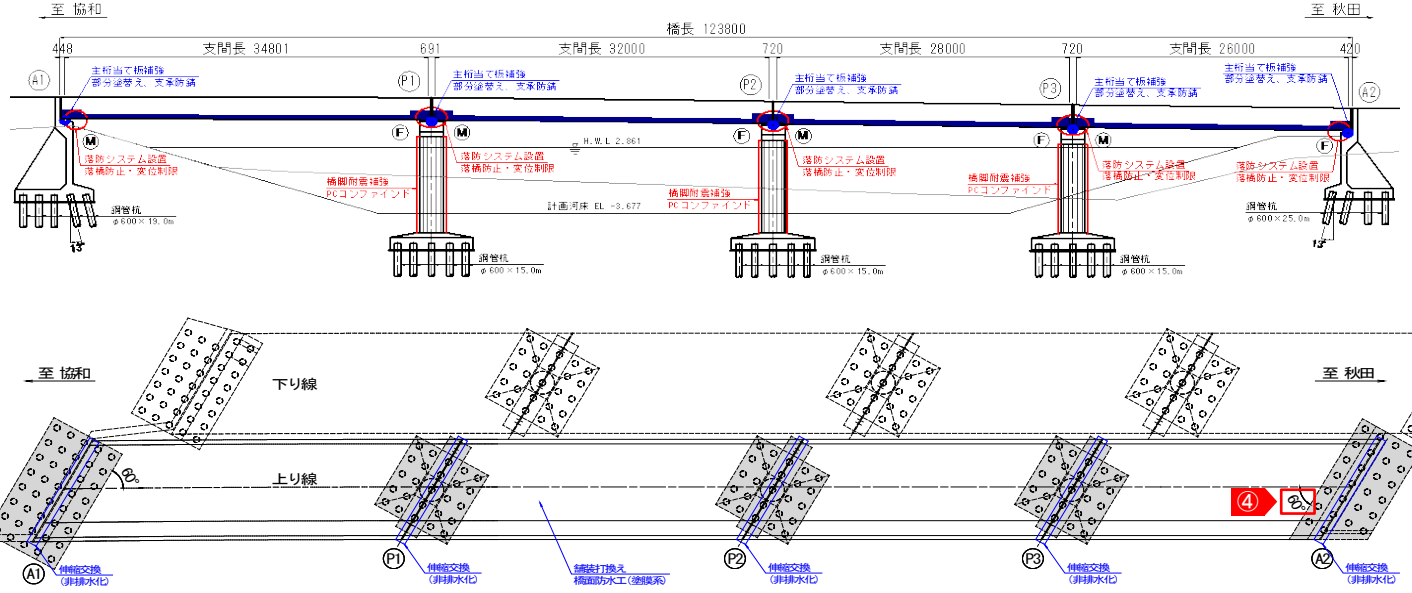
■位置図



■上部工断面図



■平面図・側面図



■工事履歴

赤字：耐震補強　黒字：補修

H7~8	全支承交換（上下線。主桁改変を伴う）、高欄・防護柵交換
H18	P1-P3橋脚耐震補強（PCコンファインド工法）
H19	舗装打換え、橋面防水工（塗膜系）
H20	部分塗替え（支承部付近、重防食塗装）
H21	落橋防止・変位制限構造設置、伸縮装置交換（非排水化）、沓座モルタル断面補修、横構当て板補修
H24	主桁当て板補強、横構部材交換、支承防錆工、沓座モルタル断面補修、部分塗替え

■本橋における点検時のポイント

①	適用示方書（S47道示）
	・設計活荷重：TL-20 ・床版厚：大型車の割増係数が考慮されていない ➪床版への負担が大きい
②	橋梁形式（合成桁、単純桁・4連）
	・床版を主桁断面の設計に見込んでいる ➪床版の損傷は橋体の耐荷力低下を招く
	・4連の単純桁であり、伸縮装置が多い ➪伸縮装置からの漏水による損傷が懸念される
③	主桁間隔（3.65m）
	・主桁間隔が広く、主桁の剛性が低い ➪床版、横桁、対傾構への負担が大きい
④	斜角（60°）
	・斜角が小さく、主桁間のたわみ差が大きい ➪床版、横桁、対傾構への負担が大きい
まとめ	【点検時の留意点】 ・床版の損傷 ・主桁と横桁、対傾構接続部の疲労亀裂 ・伸縮装置からの漏水による損傷 【前回点検時損傷写真】

